



# 三原台中だより

令和6年5月2日発行  
練馬区立三原台中学校  
校長 山崎 二郎



## 「ノーサイド」

校長 山崎 二郎

新年度がスタートしてから1か月が経とうとしています。これまで大きな事故やけがもなく、生徒たちは元気に学校生活を送っています。その一方で、5月は新しい生活に慣れた頃で、緊張が少しほぐれ、それとともに疲れが出てきて、心や身体に影響が出始める時期でもあります。特に1年生にとっては、初めての中学校生活で、これまでの環境とは違う中、不安と緊張で過ごしてきたことと思います。ぜひ、睡眠や休養、食事、適度な運動といった規則正しい生活を心がけ、明るく元気に逞しく1学期を乗り切ってほしいと思います。

さて、話しは変わりますが、私が好きなスポーツの一つにラグビーがあります。ラグビーは、1チーム15人で行い、互いの身体がぶつかり合うタックルがルールで認められている、とても激しく見応えのあるスポーツです。

ラグビーでは、試合終了のことを「フルタイム」と言いますが、日本では「ノーサイド」という言葉が使われることがあります。(ノーサイドという言葉を使うのは、日本だけだそうです)「ノーサイド」には、試合の中では激しく競い合っても、試合が終わればどちらの側(サイド)もなく、勝ち負けを離れて互いの健闘をたたえ合うという意味があります。

試合中は、勝利のために全力で激しく競技をしている選手からは、とても張り詰めた緊張感が伝わってきますが、「ノーサイド」の合図があった後の選手たちは、敵味方関係なく笑顔で握手などをしています。勝敗だけに目を向けるのではなく、全力で競技することができたことへの感謝の気持ちなどを表し、健闘をたたえ合っている選手たちの姿は、観ている人たちを感動させ、清々しい気持ちにさせてくれます。



ゴールデンウィークが過ぎると、部活動では、夏の総体やコンクールなどに向けて活動に力が入ってきます。また、中間考査が終わると、6月1日(土)に開催される運動会の練習が本格的に始まります。一生懸命に練習し、学年・学級や部員たちとの連帯感や団結力を高め、運動会や大会・コンクールの当日は、その成果を十分に発揮して活躍してくれることを期待しています。そして、全力で競技をした後は、互いに切磋琢磨してきた仲間たちや相手に対する「ノーサイド」の気持ちを忘れないでもらいたいです。

## 5月1日は、三原台中学校の開校記念日です

本校は、「子供たちが伸び伸びと学習でき、立派な社会人として巣立っていけるような教育の場を確保したい」と願う三原台地域の方々の熱い思いの中、昭和53年に大泉中学校を母体校として、近隣の中学校（谷原中、石神井東中、八坂中、石神井中、大泉学園中）の一部を併せて区内28番目の区立中学校として開校しました。今年度で開校46年目を迎えました。



開校当時の校舎



現在の校舎